

神奈川県立博物館研究報告（自然科学）投稿規定

1. 投稿資格

論文の投稿者は原則として当館の学芸員に限られる。当館学芸員との共著論文の場合、または、当館の館蔵資料の論文の場合はこの限りではない。

2. 投稿原稿の種類

- 総 説 (Review)
- 原著論文 (Original Article)
- 短 報 (Short article) (短報は、刷り上がり頁数を4頁以内とする)
- 資 料 (Note)

3. 投稿の手続き

- (a) 原稿（タイトル、氏名、所属、アブストラクト、キーワード、本文、図表のタイトル、キャプション、ランニングタイトル）は、3.5インチのフロッピーディスクもしくは光磁気ディスク、電子メールを用いてテキスト形式で提出する。3.5インチのフロッピーディスクは、MS-DOSの1.44MBフォーマット、9セクタフォーマットもしくはマッキントッシュでフォーマットしたものに限る。字体の指定や文字飾りなどは、A4判半角50字（全角25字）×27行でプリントアウトしたものに、朱書きで行かない、コピーとあわせて2部提出する。また、ハイフオナーションの位置は初校で著者の責任において指示を行う。
- (b) 図・写真等を画像データとして提出する場合は、3.5インチのフロッピーディスクに入れた、MS-DOSの1.44MBフォーマット又はマッキントッシュのフォーマット、CD-ROM、マッキントッシュでフォーマットした230MBもしくは128MBの光磁気ディスクを用いて、PICTファイルもしくはTIFFファイル、EPSファイルのいずれかで提出する。
- (c) 総説（Review）および原著論文（Original Article）は、和文・欧文いずれの場合も、タイトル（和・欧）、著者名（和・欧）、所属（和・欧）、摘要（和）、アブストラクト（欧）、キーワード（欧）、ランニングタイトル（欧）を明記する。短報（Short article）および資料（Note）の場合は、タイトル（和・欧）、著者名（和・欧）、所属（和・欧）、キーワード（欧）、ランニングタイトル（欧）を明記する。

4. 論文の体裁

- (a)
 - ・数字アルファベット等は特に意図したもの以外は全て半角で入力する。なお、和文に英数字が入り交じる場合は、英数字の前後は半角スペースをあける。
 - ・漢字は当用漢字を用いる。ただし、固有名詞は例外とする。
- (b) ランニングタイトル
 - ・表紙は「Bull. Kanagawa prefect. Mus. (Nat. Sci.), no. *, Mar. 19**」とする（編集事務担当が作成）。
 - ・左ページは著者名と、著者が2名以下の場合は連名で、3名以上の場合は「et al.」で表記する。
 - ・著者名と著者名の間は、「&」にする。また、「名・姓」の順とする。
 - ・右ページは論文タイトル（省略形）とする。
 - ・ランニングタイトルは欧文で表記する。
- (c) 著者名及び所属
 - ・著者名と著者名の間は、欧文では「&」、和文では「・」にする。また、「名・姓」の順とする。
 - ・欧文所属の後には連絡先（住所）を入れる。
 - ・他機関の著者が入る場合は、著者名の右肩に「1）」を入れ、所属および連絡先まで表記する。
- (d) Abstract
 - ・Abstractはボールドにする。また、段落はじめは半角5スペースあける。
- (e) Key Words
 - ・「Key Words」はボールドにし、「Key」と「Words」の間は半角1スペースあける。
 - ・「Key Words」の後には、コロン（:）を入れる。
 - ・キーワードは固有名詞以外は小文字にする。
- (f) 論文の種類
 - ・論文の種類は、本文が和文の場合は和文で、欧文の場合は欧文で表記する。
- (g) 本文
 - ・3名以上連名の論文を引用する際、「et al.」はイタリックにしない。
 - ・句読点は、和文の場合は「、」「。」（全角）を用いる。欧文の場合には「,」「.」（半角）を用いる。

- ・本文・キャプション中の、カンマ (,)、ピリ (.), コロン (:), セミコロン (;) 等の記号はすべて半角とし、カンマ・セミコロンのは半角スペースを、コロン・ピリのは半角スペース×2をあける。「!」 # \$ % & ' () - = ^ ` ¥ `@ + * < >」などの記号の場合も同様に、後ろに1半角スペースをあける。
- ・見出しはボールドにする。
- ・連名の論文を引用する際、著者名の間は、欧文では「,」および「&」、和文では「・」を用いる。

(h) 文献

- ・文献の書き方は、著者名、発行年（西暦）、表題、雑誌名または書名、巻、号、頁の順に記す。号数はパーレンでかこむ。単行本のときは、総ページ数、出版社名とその所在地を記入する。

雑誌・定期刊行物（和文）―――例1、例2

雑誌・定期刊行物（欧文）―――例3

単行本（全体を引用）―――例5、例6、例8

単行本（一部を引用）―――例4、例7

例1. 町田洋, 1973. 南関東における第四紀中・後期の編年と海成地形の変動. 地学雑誌, 82(1):53-76.

例2. 小原敬, 1891. 茅ヶ崎のアメリカネナシカズラ. 神奈川自然誌資料, (2):55-56.

例3. Makiyara, H. & T. Niisato, 1986. The true identity of *Dihammus fulvicornis hachijoensis* Gressitt (Coleoptera, Cerambycidae). Elytra, Tokyo, 14:25-28.

例4. 草間慶一・高桑正敏, 1984. カミキリ亜科. 日本鞘翅目学会編, 日本産カミキリ大図鑑, pp. 249-351, pls. 26-48. 講談社, 東京.

例5. 日本鞘翅目学会編, 1984. 日本カミキリ大図鑑. 2+565pp. 講談社, 東京.

例6. 黒沢良彦他編, 1985. 原色日本甲虫図鑑 (III). x+500pp. 保育社, 大阪.

例7. Kurosawa, Y., 1985. Family Buprestidae. In Kurosawa, Y., et al., eds., Coleoptera of Japan in Color, 3, pp. 2-37, pls. 1-7. Hoikusa, Osaka.

例8. McCaffery, W. P., 1981. Aquatic Entomology. xv+448pp., 16pls. Boston.

- ・著者名（和）の場合、姓と名の間は詰める。
- ・文献の並べ方は著者名のABC順とし、同著者名が2つ以上ある場合は年次順に並べ、同一年についてはa, b, cをつけて区別する。

(i) 図表

- ・仕上りの図（写真も図として扱う）及び表は、原則として頁幅以内とする。
- ・原図・原表はA4判までの大きさとし、そのまま製版できるように製図することを原則とする。・図表には著者名、図の番号（図1、図2のように書く）、天地、縮尺を記す。
- ・表の場合、仕上りの文字のサイズがおおよそ8～9ポイント程度になるようにする。
- ・表中に罫線を入れる場合、罫線の太さは2ポイント以内とする。
- ・図表のタイトル・キャプションは、本文が和文の場合は和文で、欧文の場合は欧文で表記する。
- ・表のタイトルは左詰めにする。
- ・図表の説明は、本文末尾の次の頁に書き、打ち出した原稿の本文の余白に挿入箇所を示す。
- ・図表の説明は、次のどちらかにする。

和文の場合

図1. ロシア産キンバライト. A:ダイヤモンド;B:ザクロ石;C:カンラン石.

図1-3. ロシア産キンバライト. 1:ダイヤモンド;2:ザクロ石;3:カンラン石.

欧文の場合

Fig. 1. Kimberlite. A: Diamond; B: Garnet; C: Olivine.

Fig. 1-3. Kimberlite. 1: Diamond; 2: Garnet; 3: Olivine.